

# 浅草喜劇人銘々伝

## 4

西条 昇

江戸川大学教授・喜劇史研究家

### 浅草の曾我廼家篇

曾我廼家五九郎の一座が明治45年の春に浅草・帝国館に進出して以降、浅草六区では五九郎や独立した五一郎の他にも、多くの曾我廼家を名乗る役者たちが活躍してきた。

五九郎が全盛期を迎えていた大正10年前後に一座を幹部として支えたのが、曾我廼家月小夜、十次郎、泉虎、二二三、九郎といった人たちである。月小夜は本家の五郎と十郎が明治37年に「曾我廼家兄弟劇」を旗揚げした頃から立女形を務めてきた人で、大正3年に五郎と十郎が袂を分かつと十郎一派に加わり、やがて五九郎劇に迎えられた。五九郎劇は女優陣が充実していたが、五九郎は兄弟劇時代にははるかに格上だった月小夜を立て、作・月小夜の『蓮の浮葉』を上演したこともあった。十次郎は十郎一派の幹部だった人である。泉虎は兄弟劇で曾我廼家虎を名乗り、待遇面での不満から脱退すると泉虎に改名して明治45年から「飄々云」の副座長格となっていた。二二三は浅草・花川戸の生まれで五九郎劇旗揚げからの古株だった。

り、同45年からTBS『時間ですよ』で、やたら「そこなんだよ!」という台詞を連発するチヨビ髭に黒縁メガネの杉山警官役を演じていた。何とも軽くて歯切れの良い芸風で、当時6歳か7歳の僕はファンになった。その後、藤山寛美に招かれ、三代目五九郎を襲名して長男である三代目の一二三を伴い、松竹新喜劇に復帰。寛美の没後に親子



大正末頃に浅草・金龍館「喜劇春秋座」公演の『ヒスイ賣る支那人』で支那人 李順棧を演じる曾我廼家十次郎(右)。左はその妹 きよ子役の橘花枝。

月小夜を除くこれらの人たちが皆、大正13年6月に木内興行部が浅草・金龍館で旗揚げした「喜劇春秋座」に引き抜かれてしまうのである。幹部連に去られた五九郎は曾我廼家一奴を引き上げ、『ノンキナトウサン』シリーズでは相棒的存在である隣の大將役を演じさせたが、その一奴も同座に引き抜かれている。喜劇春秋座という座名は二代目市川猿之助が同9年に結成した「春秋座」から頂戴したもので、レヴュー喜劇が台頭する昭和4年頃まで金龍館での常打ちを続けた。座長格の十次郎は師匠である十郎譲りの飄々とした芸風の持ち主で、同座の分裂後は浅草の音羽座や帝京座で座長を務めた。泉虎、二二三、一奴、九郎は昭和3年5月に浅草・公園劇場の「根岸劇壇」に加入。その後、引き抜かれた人の大半が五九郎劇に一時復帰した。

五九郎が昭和15年に没すると、二二三が終戦後に二代目五九郎を襲名。やがて次男である二代目一二三と共に「松竹新喜劇」に招かれ、二代目五九郎が同36年に没した際は新橋演舞場に程近い築地本願寺で劇団葬が営まれた。二代目の一二三は松竹新喜劇退団後に森光子と同じ事務所に入

で退団すると、三代目一二三は松竹の所屬として今も藤山直美公演などに出演している。一方で五一郎の一座からはメ太郎、祐十郎、九一郎らがのちに浅草で自らの一座の座長となった。メ太郎は昭和17年に一座を率いて浅草・大都劇場に出演し、同21年に二代目五一郎を襲名。お婆さん役を売り物とした人情喜劇で、引退する同38年3月まで浅草松竹演芸場に常打ち出演していた。

祐十郎は昭和4年から柳家金語楼と同様の兵隊喜劇を売り物にして、帝京座や金龍館で人気を博した。

九一郎は長い顔と顎が特徴的で、前名がやせ馬である。戦時中に同門の市太郎と江東花月劇場で「劇団 勝抜(かちぬく)座」を旗揚げし、戦後は九一郎劇で浅草ロック座や浅草・百万弗劇場に出演。二代目五一郎の引退後に一座を引き継いだ。昭和39年12月に解散している。

※34ページの写真も併せてお楽しみ下さい。

#### ☆イベント情報『西条昇教授と歩く 乱歩が愛した浅草』

多くの江戸川乱歩作品に描かれた浅草六区についての特別講義と現地を巡るウォークツアーを開催します。

12月7日(日)午前10時。参加費無料(事前申込み制)。

定員25名。11月1日(土)より西条ゼミHPで受付開始。

<https://sites.google.com/edogawa-u.ac.jp/2025saijozemi>

# 西条昇の浅草喜劇コレクション

## 浅草の曾我廼家篇

西条昇の所蔵資料の一部を本文ページ (P12-13) と併せてお楽しみ下さい。



兵隊喜劇が売り物の曾我廼家祐十郎(右)と其の一党が出演した地方興行「東京豪華爆笑名人大会」のポスター。昭和10年代半ば頃。



木内興行部が五九郎劇から曾我廼家十次郎、一二三、泉虎、九郎ら、五一郎劇から童三らを引き抜き、大正13年6月に浅草・金龍館で旗揚げた「喜劇春秋座」の昭和2年11月(左)と同3年10月(右)のプログラム。



曾我廼家メ太郎一座と中野傳次郎一座が出演した昭和17年9月の浅草大都のプログラム。メ太郎は戦後、二代目・五一郎を襲名している。



五一郎劇に居た曾我廼家九一郎(前名はやせ馬)と市太郎が戦時中に旗揚げた「勝抜(かちぬく)座」の江東花月劇場のプログラム。

**西条昇** 江戸川大学教授、喜劇史研究者。

昭和39年、東京・飯田橋生まれ。幼少期より浅草をはじめとする都内の劇場や寄席で喜劇と演芸を観て育つ。新聞・雑誌への連載やTV・ラジオ出演も多数。主な著書に『ニッポンの爆笑王100』『笑伝・三波伸介』など。

